

## ◆平成27年度の集大成

## 卒業研究・ケアスタディ・保育実習発表会 を終えて

 専門学校静岡電子情報カレッジ  
 静岡福祉医療専門学校 校長 中村 徹

## 文化祭

## 専門学校静岡電子情報カレッジ卒業研究発表会

平成28年2月27日(土)

## 静岡福祉医療専門学校卒業研究・ケアスタディ発表会

2月26日(金)

## ケアスタディ科内発表会

 静岡福祉医療専門学校 2年介護福祉学科 平成28年2月23日(火)  
 2年総合福祉学科 2月24日(水)

## 卒業研究学科内発表会

 専門学校静岡電子情報カレッジ 全学科 平成28年2月18日(木)  
 静岡福祉医療専門学校 2年医療情報秘書科 平成27年12月17日(木)  
 3年子ども心理学科 平成28年2月10日(水)

## キッズハウスひかり託児所生活発表会「ひかりの日」

平成28年2月27日(土)

平成27年度の学生生活集大成である「卒業研究発表会」と「ケアスタディ発表会」等が文化祭のイベントとして、本学の教育をご理解いただいている企業人や実習指導者、卒業生、地域活動でお世話になった方々等のご臨席を頂き開催された。

我々を取り巻く社会的背景は、経済的には27年度もアベノミクス「三本の矢」による一体的な取組み政策効果から、平成27年3月北陸新幹線東京⇄金沢開業、4月に15年ぶりに日経平均株価2万円台、5月には円相場12年半ぶり安値1ドル=124円台と回復した日本経済。夏には中国経済への不安に揺れ、米国の「利上げ」で新しい局面に入った世界経済。そこに9月には2020年に向けた経済成長の推進力となる「新3本の矢」発表。10月TPP日米など12カ国の大筋合意など貿易国としての復活に向けた取り込みも加速、マイナンバー法施行など暮らしに関わる制度も大きく動き出した。

また、スポーツ面においても7月には「なでしこJAPAN」がFIFA

サッカー女子ワールドカップで準優勝。9月ラグビーワールドカップやフィギアスケート、11月野球国際大会侍ジャパン3位の活躍。

文化面においてはノーベル賞の連続受賞ノーベル生理学・医学賞に大村智氏、物理学賞に梶田隆章氏、「ノーベル賞」ダブル受賞 梶田教授が「ニュートリノ振動」、大村教授「抗寄生虫作用を持つ有効物質の発見」などスポーツ、文化面でも脚光を浴びた今年度の日本。「一億総活躍社会」、「日本銀行マイナス金利」、「18歳選挙権」なども見逃せない。

資源が乏しい我が国は、少子高齢化に伴う労働力人口の減少がみられるなか、「人材」の育成と確保こそが、今後の経済成長や国際競争力、地域の産業振興を決定づける最大の要因となり、

- ① 産業構造の変化に対応できる「実践的な職業能力を有する人材」、
- ② 将来にわたり「付加価値を創出する質の高い人材」、
- ③ 労働力のグローバル化が進展するなか「国際的にも高く評価される専門知識・技能を有する人材」

などの社会基盤を支える「ヒトづくり」が急務といわれる。

しかも、少子化が進み、日本の総人口は2007年1億2800万人をピークアウトに、高齢者率20%(うち後期高齢者8%)、生産年齢人口(「国の力」といわれる)60%が、2050年には総人口9,500万人、高齢者率40%(うち後期高齢者25%)、生産年齢人口50%と減少し、そこに働く人材にはより高度な職業能力が求められる。

また、「デジタルビジネス革命」によりITが効率化の道具から、本業を大きく変革するテクノロジーと変わり、「情報ビジネス産業」から「価値創造産業」へと生まれ変わる「新たなビジネスモデル」を模索し、システム化している。

そして新たなビジネス領域創出：あらゆるものがインターネットにつながるIoT(インターネットオブシングス)時代。

IoTはモノをインターネットにつなげることでデータを活用し、新たなイノベーションを生み出そうとするコンセプト、手段である。：ソフトウェアプラットフォーム

さて、本学の教育は、如何に社会の人材ニーズを的確に読み取り、社会が期待する人材育成に役立てていくかを使命としている。

ゆえに、専門学校静岡電子情報カレッジでは、クラウド・コンピューティング時代の先端スキルを産業界との教育連携により、「インターンシップ」や「産学連携人材育成プログラム」等の「企業人との交流」を通して、「社会人基礎力」はもちろん、「企画力」、「本筋を見抜く洞

察力」、「統合力」、「問題発見・解決力」などの素養を身につける機会を教育プログラムに取り込んでいる。

また、静岡福祉医療専門学校では、少子・超高齢化社会の人材ニーズに応え、学科・学年ごとにテーマを決めた「職場実習」、「ボランティア活動」を通して「職業観のイメージ付け」や身に着けなければならない「社会人基礎力」に「専門スキル」を自らが認識できるような教育プログラムを構築している。

発表会においては、電子では完成度の高い研究内容であり、制作プロセスやターゲット設定がよくでき、コンテンツとの整合性も高く、プレゼンもポイントを押え、「高付加価値」につながる研究発表がなされた。

また、福祉では各学科ともそれぞれの職業観がよく表現され、来賓も教職員も「若い感性」による上達したプレゼンに称賛の拍手を送った。

残してくれたみんなの集大成は、本学の財産である！！

この成果は来年度に継承され、今年度以上の大きな成果を期待するところだ。

特に、電子の「産学連携人材育成プログラム」や「コラボレイトによる高付加価値につながるレベルの高い研究」、福祉においては「地域に開かれた専門学校」に基づく「ボランティア：地域活動」等の後輩への継承を強く期待する。

「緊張」と「失敗」は成長への「肥やし」である！

今後も研鑽重ね、「自信」と「誇り」を持ち、「スペシャリスト」としての道を切り拓いていただきたい。

社会にアプローチできる研究テーマへチャレンジし、そのプロセス、プレゼンテーションを通じて自己のスキルアップが図れるのだ。

### 《卒業研究、ケアスタディ発表会—コンセプト》

1. 時代に即した、将来に向けた研究テーマであること
2. 修得した専門知識と技術の集大成であること
3. 「コラボレイト」により、関連知識の幅を広げ、汎用性・応用性を身につけること  
⇒「高付加価値」に繋げる
4. グループ研究であること—グループ内のインターフェイス(ケアスタディ発表会は個人)
5. 「プレゼンテーション」、「コミュニケーション」、「ドキュメント」等の技法をマスターし、アピールする手法を身につけること
6. 「企画書」、「スケジュール進捗状況管理」等を作成し、与えられた時間内で完成する計画的な研究を目指すこと
7. 「100%の完成度」にもっていくこと
8. 「実証実験」にもとづく研究発表とすること
9. 発表の際には、自分の資料を読むのではなく、自分の言葉でプレゼンすること
10. プレゼンの中に、「研究の中で一番試行錯誤した点」や「それが将来どのような分野で、どういう形で役立つのか」等をマトメの中に含み、可能なら「継続研究」につなげる

### 静岡市

「シズオカ型オープンデータシステムの推進」プロジェクト  
「シズオカアプリコンテスト Shizuoka App Awards」  
において

専門学校静岡電子情報カレッジ

ICT 情報システム学科1年 高橋卓也

開発アプリ「しずっ子マップ」で

2016.2.26 コンペティション 「優秀賞」受賞

おめでとう！！



### ◆卒業研究発表会・ケアスタディ発表会を終えて

教頭・教育部長 有賀 浩

#### <電子情報 企業対象卒業研究・ゼミナール活動発表会>

- ・SSB ソリューション株式会社 専務取締役  
(本学学校関係者評価委員・教育課程編成委員) 池谷 和彦 様
- ・アイティ・インターナショナル株式会社 代表取締役  
(本学学校関係者評価委員・教育課程編成委員) 長坂 祐二 様
- ・株式会社システムソフィア 管理部長  
(本学教育課程編成委員) 五十嵐 卓 様
- ・コールプロダクション 代表 興津 伸一郎 様

#### ○発表テーマと学生メンバー

##### <1>産学連携活動発表

「産学連携による企業PV制作」  
～(本学講師 安本先生、有限会社サン美装様のご指導による)  
白鳥 悠太、滝浪 博斗 (ICT 映像・音響デザイン学科2年)

##### <2>プロゼミ活動発表

「タイムラプス動画の制作」  
萩原 有右斗、宮内 真聖、村林 萌花  
(ICT 映像・音響デザイン学科1年)

##### <3>卒業研究発表

「虫歯予防のアニメ制作」  
白鳥 悠太、滝浪 博斗、片又 千尋、杉山 萌  
(ICT 映像・音響デザイン学科2年)

##### <4>ゼミナール・プロゼミ活動発表

スマホアプリ「しずっ子マップ」開発  
～しずおかアプリコンテスト優秀賞受賞作品  
大石 裕登 (ICT 情報システム学科2年)  
高橋 卓也、尾崎 純平、北 憲明 (ICT 情報システム学科1年)



### ○ご出席頂いた企業の方々からの各グループに対するコメント

【一部抜粋】

#### <1>

- ・企業の魅力がよく伝わる、とても良い作品だ。センスが良い。
- ・声・トーン、質疑応答も含め、プレゼンが良かった。
- ・プロモーションビデオとしては文字の量が多い。余分な文字をカットすると一層良くなる。
- ・取材前に打ち合わせ内容を検討しておくといよい。クライアントとの交流をもっとしたかった。
- ・キャラクター同士の会話で吹き出しが替わるときに効果音があるとよかった。

#### <2>

- ・BGMの選曲が良い。またシーン切り替え時の音響エフェクトに魅かれた。
- ・苦労した点をNG集として紹介したのが良かった。
- ・質問に対する受け答えなどが的確で、プレゼンのレベルが高かった。
- ・グループでの作業について、大変よい経験ができたと思う。来年度に大いに期待する。
- ・コンセプトやストーリーを練って欲しい。

#### <3>

- ・キャラクターの動作など、大変よくできている。力作であることが十分伝わる。
- ・子供向けに一層デフォルメすると更によくなる。逆に手、洗面台等 はリアルさを向上させるとよい。
- ・映像グループと音響グループのスケジュール調整の大変さが分かった。

- ・手描きのアニメーション、大変な手間だったと思うがよく完成できている。
- ・今回得られた達成感は一生の宝物。

#### <4>

- ・大変素晴らしいプレゼンだ。組み立て、話し方、表情、何れも高く評価する。
- ・アピールポイントの伝え方が見事。完成度の高さも素晴らしい。
- ・スケジュールとマッピングの融合は、将来ビジネスとして展開も期待できる。
- ・限られたオープンデータを中心に据えた開発で、その苦労が伺われる。
- ・結合・運用は実務でも大変なところ。良い経験が積めた。
- ・アイコン、デザイン全般に更なる向上を期待する。